

e-dream-s 通信

No.43 発行：2004年3月14日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

目次

- | | | |
|--|--------|-----|
| 1. お楽しみはこれからだ You ain't eaten nothing yet. | 辻 荘一 | p1 |
| 2. ソウルの黄砂・濟州の陽光 | 井川 好二 | p3 |
| 3. “同志”的再会 | 中川 房代 | p7 |
| 4. 最初の晚餐 | 富永 佐規子 | p8 |
| 5. ソウル下見報告 | 稲川 宏美 | p10 |
| 6. チェジュ島を訪問して | 塚本 美紀 | p11 |
| 7. ECAP テキストを使ってみました | 山田 昌子 | p12 |
| 8. ECAP 2003 Korea アンケート集計結果報告 | 辰巳 ゆきえ | p15 |
| 9. お知らせ | | p20 |
| 10. アクロス30周年記念誌に関する写真送付のお願い | 藤澤 俊之 | p23 |



ECAP2004 Korea
に向けての下見が
2月14日～18日
にかけて行われま
した。
左の写真は、昨年
夏、ECAP2003
Korea に参加され
た韓国の先生方と
の食事の時のもの
です。
(富永さん提供)

お楽しみはこれからだ

You ain't eaten nothing yet

辻 莊一

食事のパターンは毎日だいたい決まっている。朝はオールブランのコーンフレークにレーズン・クコの実・松の実・ヒマワリの種・黒豆をふりかけて牛乳で食べる。それに野菜ジュースとコーヒー。あればバナナも一本。健康優先だ。昼は仕事もあるからスピード優先。弁当があれば弁当とインスタントみそ汁、なければ近所のスーパーで買った弁当。朝食も昼食も美味しくいただいているが、やはり楽しみにするのは夕食だ。一日の締めくくりには美味しいものを食べたい。外食となればレストランを選ぶときも真剣になろうというもの。

そういうわけで結構気合いを入れて選んだ西区江戸堀のパッシオーネというイタリア食堂で、英語テキスト12テーマがとりあえずすべて出来上がったお祝いのテーブルを囲んでいるのは、井川顧問、中川副代表理事、Lance Barrows それに私の英文テキスト校正に関わった4人である。ランスが達者な日本語で言う。

「でも、みんな真剣だから楽しいよ。」

ランスは大阪府のALTでありテンプル大学院の学生でもある。ECAP 2003 Korea の英文テキストを手伝ってもらっている。「でも、みんな真剣だから楽しいよ」は井川顧問の「ほんまに、ランスはようやくくれた。大変やったやろ」という言葉に答えたものだ。

テキストセッションは何回やっただろう？ ボランティアで引き受けてくれたランスが予想していたよりはずっと回数も多く作業も大変だったはずだ。しかも non-native speaker 3人、好き勝手にああでもないこうでもないというさ中で、たった一人の native speaker としての大変さは想像に難くない。しかしランスは嫌な顔一つせず、それどころか楽しんでいるようすだったことが嬉しい。

考えれば不思議なものだ。アメリカ人であるランスに日韓相互理解教材の作成はどのように映るのだろうか。例えば、わたしが日本語のALTとしてタイで日本語を教えているとする。ある日タイ人の日本語教師からタイ・ベトナムの相互理解教材をタイ語・ベトナム語・日本語の3カ国でつくるので日本語の推敲をボランティアで頼まれたとして、わたしに興味はわくだろうか？

しかしどういう訳かランスはECAPや日韓相互理解教材の意義を理解しその内容にも興味を持って聞いている。少なくともわたしにはそう見える。手前味噌ながら e-dream-s の心意気が伝わったのかも思う。

とにかく、まだ完成まではひと仕事もふた仕事あるものの、とりあえず一段落した仕事の後仲間とテーブルを囲めるのは楽しい。真剣に取り組んだ仕事の後で、真剣に選んだレストランの美味しい料理

を仲間とともに囲めることは幸せである。

50年近く生きてわたしの人生も、1日で言えばいよいよ日暮れ時、夕食の時間を迎えている。人生の朝食も昼食もそれぞれに美味しかったが一番楽しみな人生の夕食が待っている。人生の夕食時に食べる、本当の夕食も真剣な仕事の後で仲間と一緒に食べてこそ一番美味しい。のんびり隠居する暇はない。「お楽しみはこれから」なのである。

e-dream-s.come.true

ソウルの黄砂¹、済州の陽光

井川 好二

二月半ばのソウルは、思ったより暖かく、ずいぶん覚悟をして行ったのだが、刺すような酷寒の空気を、感じることはなかった。そうすると、やや物足りないと思ってしまうのは、やはり旅人のわがまま。しかし、その寒さの代わりに、中国からの黄砂が、ソウルの空をどんよりと覆っていた。

半島が中国に近い分、日本におけるより黄砂による被害は大きいようで、自動車のボディやウインドウの汚れ方は、尋常ではない。洗車後、ものの10分も車を走らせれば、まるでゴビ砂漠を走破したような有り様。地面からの埃ではなく、空から降ってくる黄砂の仕業である。

この夏、二回目のECAPを韓国で開催する。

去年の成功にプラスして、新しい勢いを。新年度の企画を、一気に加速しようとソウルにやって来たのだが、この暖かさと黄砂に、些か戸惑う。唇が凍りつきそうな寒さに耐えて、再び立ち上がるきっかけをつかもうとしたのだが、生暖かさが、邪魔をする。多くのソウルの友人たちは、暖かく迎えてくれるが、deja vuの感は否めない。旧交を温めつつ、新年度の企画を話しあうが、シャープなドラマ

¹ 黄砂 (yellow sand) [気象] 中国の黄土地帯やその西側の砂漠地帯で強い風により吹き上げられた多量の砂塵が、空中を舞う現象、または舞っている砂塵。気温が上がって乾燥が進み、低気圧や前線にともなう強風が吹く春に多く発生する。この砂塵が上空の西風に乗って日本にまで飛来し、空が茶褐色にかすむことがある。最近3年ほどは黄砂の飛来が多く、2002(平成14)年は全国集計を開始した1967(昭和42)年以降では最も観測日数が多かった。北海道でも繰り返し黄砂が観測され、西日本では視界不良により航空機の運行に影響が出た。黄砂が増加している要因のひとつとして中国での砂漠化の進行がある。黄砂の発生や飛来ルートを探る国際的な研究や植林など砂漠化をくいとめる試みが進められている。一方、黄砂には酸性雨を中和する働きとともに、海洋の植物プランクトンの栄養源になり漁業資源の育成に役立つという別の側面もあるといわれている。[現代用語の基礎知識2003]

イブがかからない。

それに、狂牛病と鳥インフルエンザ流行の影響である。韓国で猖獗していると云うわけでは決してないが、人々は万が一の感染に備えて、注意深くなっている、と云う。つまり、骨付きカルビやブルゴギを食べないソウル。サムゲダンのないソウル、である。

むろん、黄砂のせいではない。伝染病のせいではない。自分のモチベーションの問題。ソウルに来れば、企画はなんとかなると、タカを括っていた罰？ここで気合いを入れないと、と焦るが・・・エンジンはかからない。

ソウルの2日いて、その夕方、済州島に着いた。

快晴である。陽光が燦々と降り注ぐ。標高1950mの漢拏(ハンラ)山山頂は、雪が冠っている。

済州島は、「三無」、「三多」と云う。「三無」とは、済州島には、泥棒がない、乞食がない、家に門がないこと²を云い、島が、それだけ豊かで安全だと云うのである。

「三多」とは、済州島には、石、風、女が多い状況を示しており、火山島なので軽石のような火山岩が多く、季節風の影響でよく風が吹き、海女などの仕事に携わっている女性が多いため、表で女性が目立つ³、ことを示している。尤も、女性は、年寄りばかりだが、と断りがつく。

むろん、どちらも多分に誇張だが、そう言い切ってもおかしくない。つまり、こっちが、そういうお国自慢許す気持ちになるのである。いい島である。

翌日、島を案内してくれたタクシーの運転手、梁さんは、50代半ば。日本語が上手であった。

「日本語上手いですね。どこで習いましたか？」

「16の時に、船で密航して、大阪へ行きました」

「へ～え？密航！」

「そう、それから生野の工場で働きました。一生懸命働きました」

²「三無」は済州島に無い物、物乞い、泥棒、門の3つを指します。済州島はとても小さい島なので物乞い、泥棒はなく、そのために門もない、ということを示しています。実際に物乞いはとても少なく、また門が開きっぱなしの家も多く見かけます。<http://www.seoulwind.com/korearoad/city/cheju/> より。

³「三多」は3つの多いものことで、これは石、風、女性を指します。済州島は火山島なので石が多く、また季節風の影響でいつも風が吹いています。女性が多いというのは実際に人口が多いという訳ではなく、済州島の女性はよく外に出て働くので目に付く、という意味だそうです。

<http://www.seoulwind.com/korearoad/city/cheju/> より。

戦後のある期間、済州島からの密航者が、ずっと絶えることがなかったと、日本に帰ってから知った⁴。

「猪飼野⁵あたり、韓国出身の人、多いからね」

「そう、暮らし易い」

「なるほど」

「8年働いて、チェジュに帰ってきました」

こう云う新たなディテールが出てくると、ECAP 韓国を再開する意味が新たに浮かんでくる。

蓋し、今回は、済州島に救われた。

.....

以下に、ECAP 2004 韓国（2）で作成するテキストに、取り上げたらと思うトピックをあげる。

まだ素案の段階だが、デリケートな問題も含まれている。しかし、そろそろ、こう云う微妙な問題を、韓国の先生たちと、誠意を持って話し合い、お互いの意見をぶつけあう時期なのではないだろうか。

トピック案：ECAP 2004 韓国（2）テキスト

1. 猪飼野：済州島からの移民、「君が代丸」（戦前にあった直行フェリー）
2. 竹島・独島⁶
3. 日本海・東海⁷

⁴高鮮徴『在日済州島人の「不法入国」から「特別在留」獲得まで・大阪を事例に・』

<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Labo/8108/koh1.htm>

⁵ 日本の産業革命の時代であった明治20～30年代。大阪市でも、港湾部を中心に、紡績・造船といった大規模な近代工業生産が盛んになる。当時の工業は石炭を燃料とする蒸気機関が主動力であり、そのため煙突が林立し、かつて「水の都」と言われていた大阪が「煙の都」と言われるようになる。そのころ猪飼野村（当時の地名）の所属する東成郡にも、産業革命の波が押し寄せ、小企業、零細企業を中心に活況を呈するようになる。

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/osaka/kikaku/007/8.htm> 参照。

⁶たけしま【竹島】(1)日本海、隠岐諸島の北西方にある島。日本では古くから知られ、また、1849年(嘉永2)フランス船リアンクール号が発見しリアンクール岩と命名したことにより、ヨーロッパにも知られた。1905年(明治38)島根県に編入。大韓民国が独立後、その領土権を主張して係争中。面積0.2平方キロメートル。(2)鬱陵島うつりょうとうの別称。[広辞苑第五版図版付き]

⁷ 日本海名称論争〔領土・領域〕「日本海」(Sea of Japan)の呼称については、1990年代以降、韓国は「東海」(East Sea)と称すべきだと主張していたが、国際水路機関(IHO)が、50年ぶりとなる2003(平成15)年改訂予定の海図「大洋と海の境界」の最終稿から「日本海」を載せたページを削除し、02年8月、加盟72カ国にその内容の是非を問う書簡を配布したことから、問題が表面化した。韓国政府は、「日本海」の呼称が定着したのは、日本の植民地主義が原因とし、歴史的には「日本海」より、「東海」「東洋海」「朝鮮海」の呼称が古くから使われてきたと主張している。日本海の呼称が正式登録された1929(昭和4)年のIHO会合当時、朝鮮は日本の植民地支配下にあり、独立国として異議をとる事ができなかったという。これに対し、日本政府は、日本海の名称は、鎖国時代の18世紀末から国際的に定着しているとして、韓国の主張に論拠はないという。国連地名標準化会議での話し合いの結果、9月初めに、従来どおり日本海の呼称を用いるとの結論に至った。

4. 沙也可⁸
5. 朝鮮通信使⁹
6. 百濟¹⁰
7. 韓国新幹線¹¹:ソウル~釜山
8. 統一展望台・DMZ¹²
9. 万景峰 9 2¹³:拉致問題
10. 伊藤博文¹⁴

(Saturday, March 13, 2004)

世界の地名を正式に決める国際組織はなく、国連地名標準化会議やIHOは、話し合いの場所ではあるが、紛争を解決する機関ではない。両国の話し合いが決着しなければ、双方の主張を併記することになる。なお、世界で同様の論争は、ドーバー海峡 v s カレー海峡、ペルシャ湾 v s アラビア湾などにみられる。[現代用語の基礎知識 2003]

⁸沙也可【さやか】文禄・慶長の役の際、朝鮮側に投降した日本人武将。

金忠善キムチュンソン[岩波日本史辞典]

金忠善【キムチュンソン・キンチュウゼン】? 1643(仁祖 21) 文禄・慶長の役(壬辰倭乱)に従軍し、朝鮮側に投降した日本人武将。日本名は沙也可で、もと加藤清正軍に属したという。官職(堂上官・正三品)と金忠善の名を朝鮮国王から受けた。号慕夏堂。壬辰倭乱で明・朝鮮軍に属したほか、李#りかつの乱(1624)や丙子胡乱(1636, 清軍入寇)に活躍した。子孫が韓国慶尚北道達城郡に住居。[岩波日本史辞典]

⁹ちょうせん つうしんし【朝鮮通信使】朝鮮国王が江戸幕府に派遣した使節。將軍襲職などの慶賀のため 1607 年(慶長 12)から 1811 年(文化 8)まで 12 回来日。朝鮮使節。朝鮮信使。[広辞苑第五版図版付き]

¹⁰くだら【百濟】(1) 古代朝鮮の国名。三国の一。4~7 世紀、朝鮮半島の南西部に拠った国。4 世紀半ば馬韓の 1 国から勢力を拡大、371 年漢山城に都した。後、泗#しひ城(現、忠清南道扶余)に遷都。その王室は中国東北部から移った扶余ふよ族といわれる。高句麗・新羅に対抗するため倭・大和王朝と提携する一方、儒教・仏教を大和王朝に伝えた。唐・新羅しらぎの連合軍に破られ、660 年 31 代で滅亡。ひやくさい。はくさい。(~660)(2)(1) などからの渡来人の居住した土地の名。(3) 奈良県北葛城郡広陵町の一地区。(4) 大阪市生野区鶴橋付近の地。百濟王氏の氏寺があったという。[広辞苑第五版図版付き]

¹¹韓国版新幹線が 4 月開業、ソウル-釜山 2 時間 40 分

<http://www.nikkei.co.jp/news/kaigai/20040119AT2M1901A19012004.html>

韓国建設交通省は 19 日、韓国版新幹線「京釜高速鉄道」の営業運転を 4 月 1 日に始めると発表した。ソウル-釜山間(約 410 キロメートル)の所要時間を現在の半分近くの 2 時間 40 分に短縮する。日帰り鉄道旅行圏が広がり、割高な国内航空路線との競争が激しくなるのは確実だ。

京釜高速鉄道は専用軌道をソウル近郊の光明(カンミョン)-東大邱(トンテグ)間に新設し、残りの区間は既存の一般軌道に乗りいれる。1 日当たりの運行は 60-64 本。ソウル-釜山間の予定運賃は 4 万 9900 ウォン(約 5000 円)で、従来の特急列車より 35%高い。車両は当初、フランスの技術協力を得た高速列車「KTX」を使用するが、2007 年からは自国技術で開発した高速車両を投入する予定。時速 300 キロメートル超で営業運転できる。2010 年には全区間に専用軌道が完成し、ソウル-釜山間は一時間 56 分まで短縮される。総事業費は 18 兆 4000 億ウォン(約 1 兆 8400 億円)を見込む。(ソウル=山口真典)(22:13)

¹²DMZ(demilitarized zone) 非武装地帯[広辞苑第五版図版付き]

¹³<http://www.geocities.co.jp/WallStreet-Bull/8940/>

¹⁴いとう ひろぶみ【伊藤博文】明治の政治家。初名は利助、のち俊輔。号、春畝。周防出身。松下村塾に学ぶ。討幕運動に参加。維新後、藩閥政権内で力を伸ばし、憲法制定の中心となる。首相・枢密院議長・貴族院議長(いずれも初代)に歴任、4 度組閣し、日清戦争などにあたる。政友会を創設。1905 年(明治 38)韓国統監。ハルビンで朝鮮の独立運動家安重根に暗殺された。元老。公爵。(1841~1909)[広辞苑第五版図版付き]

< 「ECAP 2004 韓国」下見報告；韓国の先生との昼食会 >

“同志”的再会

中川 房代

2月15日、昨年8月フェニックスパークで一緒に3泊4日の缶詰合宿を行った韓国の先生と再会した。「ECAP 2003」に参加した7名の先生のうち5名が会いに来てくださった。(Mr. Kim Kwang-Suk、Mr. Choi Sung-Kon、Ms. Kwon Young-Hee、Ms. Hong Yeon-Kyung、Ms. Chung Bok-Young)

打ち合わせは昼食をとりながら。「しゃぶしゃぶ」だと聞き、「やったー！」と思ったが、BSEと鳥インフルエンザの影響とで、肉は豚肉、「ポークしゃぶしゃぶ」。寄せ鍋風のスープに野菜や肉を“しゃぶしゃぶ”して食べるのだが、そこは韓国風。だしをくぐらせたチシャや白菜などの葉で、焼肉のように肉や野菜を包んで食べる。初体験だったが、なかなか美味しい。日本に帰



ったらやってみようと思った。韓国の先生は、ポークしゃぶしゃぶ

「え～？豚肉でしゃぶしゃぶを食べるなんて！」と、初めての経験に戸惑っていた様子であったが、「美味しい」と、食も進んでい

たようだ。

打ち合わせでは、ECAP テキストの進捗状況、1月末に行った「ECAP 2003 アンケート」の結果、「ECAP 2004」の予定などについて説明を行い、その後は食事をしながらそれぞれのテーブルで意見を交換した。私は、Choi Sung-Kon さん、Hong Yeon-Kyung さんと「ECAP 2003」に参加しての感想やテキストに載せるトピックは何かいいかなどについても話をした。

下見に行ったのは2月中旬。韓国では3月から新学期が始まる。旧正月の祝いを終え、新学期に向けての準備が始まろうとしていた時期だったので、転勤や学校内の人事の決め方なども話題になった。フェニックスパークで私と同室だった Ms. Park さんは1月に女の子を出産したそうだ。(今回会えなかったのは残念。)

こうして半年ぶりに顔を合わせても、その時間を感じないのは、やはり ECAP の目的とその意義のお陰だと改めて思う。これまでも海外には何度も行ったし、学校訪問やホームステイなどでたくさんの人たちに出会ってきた。でも、今回は少し違った感じがしている。会って話をすることに加え、「相互理解のためのテキスト作成」という共通の目的を持ち、その目的達成に向けて3泊4日共に頑張ったことは、単に「友だち」というよりも「同志」という感覚の方が近いような気がしている。第2回 ECAP では、その関係を基に、より深い論議ができそうでとても楽しみである。

8月のECAPに向け、私は主にテキストやその授業実践例の収集を担当する予定です。実行委員の一人としてしっかり準備を進めていきたいと思っていますので、どうぞよろしく願います。



昼食会のひとコマ：写真左から、辻さん、井川さん、Kim Kwang-Suk さん、塚本さん、Kwon Young-Hee さん、富永さん

最初の晩餐

富永 佐規子

14日、韓国に到着して最初の夜に、李龍宰(イー・ヨンデ)先生の手配して下さった韓国料理店で夕食をいただいた。参加者は、李先生とその同僚の方二人(男性一人、女性一人)張榮秦(チャン・ヨンテ)さん、張さんの友人の藤本さん、日本側の実行委員7名である。おりしもまだまだ冷たい冬の風の吹き荒れる日だったので、オンドルの床に腰をおろすとほんわり暖かく、ほっとした。

家庭的な雰囲気のお店で、出てきた大皿の料理を見てびっくり。話には聞いていたものの、本当に見事なほど牛肉と鶏肉は姿を消し、美味しそうな豚肉だけがずらりと並んでいた。夫が鳥インフルエンザ発生の直後、「これで豚コレラでも流行したら、肉は食えなくなるぞ。」と、冗談交じりに言っていたが、韓国ではとてもそれが冗談とは思えない状態だった。昨夏のサムゲタンのお店はどうなったのだろうか、一瞬考えてしまった。(結局私たちが牛肉を口にしたのは、帰国直前の空港のレストランでのみだった。)

肉は豚肉だけだったが、お皿から溢れんばかりの新鮮な生牡蠣など、魚介類は豊富に供された。塩漬けの白菜や、紫蘇だという葉に包み、何種類かの辛味のきいた漬物や味噌をのせていただいた。面白かったのは最後の方で出てきた釜飯で、日本で言うお赤飯のような豆ご飯なのだが、ひと通り食べた後お湯をそそいでコゲを落とし、食すのである。昔なつかしい味がした。和食とは全く異なるのだが、なぜかどこかなつかしい夕食であった。きよろきよろしていると、「私は大食いですからあつという間になくなりますよ!まずは食べて食べて!」と、隣の張さんに忠告(?)されてしまった。

美味しい食事と次々注がれるビールに、舌のすべりも好調になり、テキストについての話題も出た。「日本人にとっては、なかなか興味深い話題が採り上げられているが、韓国の人にとってはどうか。韓国の人にとって興味深い話題、韓国の人を知りたい日本とは何か。」「そういえば、街でごく普通の学生たちが、鬱陵島(日本名 竹島)が自国の領土であると訴えていた。日本では、一般の人はほとんど興味を持っていないのに、そのギャップはどこからくるのか。」などなど。

もちろん硬い話題ばかりではなく、韓国側の女性から男性全員にチョコレートが配られたり(2月14日は聖バレンタインデー)日本土産の雛菓子が配られたり...。店を訪れたチマチョゴリを纏った美しい女性と男性(新婚カップル?)の写真を撮らせてもらったり...

初めて実行委員として参加させていただいた私にとっては緊張の連続だったが、ECAP KOREA(2)の舞台裏を実際に体験することで、考えていたよりも多くの方が準備に心を砕いて下さっていること、ECAPに深く関わって下さっていることを実感した。一度あるいは何度も経験している方にとっては当たり前のことなのであるが、そのことを昨夏参加しなかった東京のメンバーには是非、伝えたいと

思った。

ソウル下見報告

稲川 宏美

ホテルに着くと懐かしい顔が待っていた。鞆をおくのもそこそこ昨年ホームステイでお世話になった人たちとお会いしお話をした。金鐘緑さん、李恵順さん、ノウ貞愛さんとお会いした。短い時間ではあったが、3人とも快く協力を引き受けてくださった。ソウルで見たい宿泊場所の候補地のことを言うと早速かわるがわる電話をかけて問い合わせてくださった。そのおかげでその日の内に現地を見てみる事が出来ることになった。昨年同様、一度引き受けると本当に親切に出来ることはどんどん協力してもらえるのがとてもうれしい。協力してもらおう分この夏のセミナーも充実したものにしなければ、と責任感を感じる。

2時間ほど話した後、ソウル女性プラザという建物に向かった。チャンさんに通訳をしてもらって部屋を見せてもらい予約の状況などお聞きした。最近できた新しい建物で部屋や設備はよい。また、ツイン 1泊33,000ウオ、4人オンドル部屋 1泊66,000ウオ、視聴覚室（60人くらい可）1時間 20,000ウオ、conference room（60人くらい可）1時間40,000ウオ、と値段が大変安いのが魅力だ。場所は地下鉄一号線テバン〔大方〕駅のすぐそば。

2日目の午前中はソウルオリンピックテルというソウル五輪の時にできたホテルへ行く。

ヤンヒーさんの案内で見学をした。ここは郊外でまわりの環境は申し分ない。大きな公園の中にあってジョギングや散歩などする人が多い。海外からのスポーツ遠征の人たちも泊まっていて英語での対応もある程度出来るようだ。一般のソウルのホテルに比べて値段も手頃である。2段ベットが2つついた部屋が180,000ウオでグループごとの部屋として使えそう。この部屋は人気のある部屋なので早く予約して欲しいとのこと。ツイン 180000ウオ、会議室 20人程度 1日 300,000ウオ、会議室（大） 40人程度 1日 700,000ウオといった内容だった。

ヤンヒーさんの快活な通訳で見て回るのも楽しかった。

規模的に言えば女性プラザはいわばアウィーナ大阪の様な感じ、オリンピックテルは万博のホテルサンパレスくらいの感じと言えばわかってもらえるだろうか。

女性プラザもオリンピックテルも、今までと違って旅行社を通さないことになるので予約金が必要。その分早く募集をかけて参加者を決めていかないといけない。今後実行委員会で検討し詳細は決定していくことになる。

ともあれ、どうやら泊まる場所は決まりそう。様々な人の協力で今夏のセミナーも動き出した。帰り道、空港から、昨年社会の補習授業をみせてくださった中京高校のパクチュンヒョン先生に電話をした。あまり日本語も英語もしゃべれない方なのでドキドキして、ゆっくり一生懸命この夏もソウルへ来ること、ホームステイのことなど協力して欲しいと言うと「はいはい、大丈夫ですよ」と明るい声で答えてくださった。

昨年出会った人たちと2年越しでまた、つながっていく実感がした。寒いのになんだか暖かくとてもさわやかな気分になって駆け足の下見を終えて空港から日本へと帰路についた。

チェジュ島を訪問して

塚本 美紀

2月15日、ECAP 2003 Korea にご参加くださった韓国の先生方とのミーティングを終えた後、ヤンヒのご主人の車で、金浦空港まで送っていただいた。空港の中には、「さっき結婚式をあげたばかり」といった感じのカップルが2, 3組いて、なるほどチェジュ島は新婚旅行の場所なのだとことを思い出す。チェジュ島行きの飛行機を待っている人たちの服装は、ソウルで見た人たちよりかなり薄着で、襟元に毛皮のついたコートを着ていた私は少し浮いていた。

ソウルの金浦空港からチェジュ空港まで、1時間のフライトである。夕食に、どこで何を食べるのかということが決まらないうちに着いてしまった。空港を出ると、「澄んだ青空に椰子の木」の風景で、チェジュは韓国のハワイと言われていることを納得する。1時間ほどバスに揺られ、チェジュ島の南西にある新羅ホテルに到着する。新羅ホテルがある一帯は、韓国観光公社が1978年から開発を始めた地域で「中文リゾート(チュンムンリゾート)」と呼ばれている。美しい砂浜や海沿いのゴルフコースやおしゃれなリゾートホテルが集まっている。我々が宿泊した新羅ホテルは、1996年韓米首脳会談が行われたり、映画「シュリ」の舞台になったりと、話題の多いホテルである。我々の滞在中も、清涼飲料水のCMの撮影が1日中行われていた。



ホテルのレストランで朝食をとっていると、カップルでないのは我々だけだということに気づいた。我々以外は、皆、若いカップルで、そのほとんどがペアルックである。駐車場を見ると、レンタカーとみられる韓国製の赤いスポーツカーがたくさん駐車してあって、新婚旅行カップルが利用しているようだった。「ペアルック、赤いスポーツカー、チェジュ島」というのが、新婚さんのトレンドなのかもしれない。

チェジュは日本とのつながりの深い島である。ホテルのコンシェルジュに頼んで、日本語の話せるタクシードライバーを紹介してもらい、1日チェジュ島を案内してもらった。運転手の名前は築(ヤン)さんといい、「高」「夫」とともに、チェジュ島固有の姓であるそうだ。その築さんは、16歳の時に日本に密航したという。漁船に乗って、九州のどこかの島に着き、迎えに来てくれた親戚に連れられて大阪に行き、そこで20代半ばまで働いていたという。彼の説明では、日本にはたくさんのチェジュ島出身の人が住んでいるそうだ。



築さんの案内で、民芸村に行った。昔からの家が保存され、実際に人々が生活している村である。観光客が来たときは、家の一部を説明しながら見せてくれ、そのついでにチェジュ特産のサボテンの実から作ったジャムだの、お茶だのといったお土産品の販売もしているといった場所である。驚いたのは、温暖な気候であるのに、村の家には昔からオンドルの設備があったことである。寒暖にかかわらず、オンドルを家に備え付けるといことが「韓国的」であるために必要なことだったので

うか。

駆け足の下見で、チェジュ島の一部しか見ることはできなかったが、興味深い島である。夏はきっと多くの観光客で賑わい、また違った風景を見ることができるのだろう。

ECAP テキストを使ってみました

山田 昌子



「キムチって、乳酸食品？ヨーグルトみたいってこと？」

「先生、キムチ・バーガー食べたん？どんなん？美味しかった？」

「韓国でも辛くない食べ物があるん？」

「先生がオーストラリアで芋虫食べたみたいで、変わった食べ物もあるん？」

ECAP テキストを使って授業をした時の生徒たちの反応の一部です。教科書を使う時以上に多くの写真を利用したせいもあるでしょうが、期待以上に

生徒たちが関心を寄せてくれたのは興味深かったです。私自身が12月に出張で韓国を訪問したことも、影響していたのかもしれませんが。

私たちは、昨夏に ECAP Korea 2003 で異文化理解のための教材を韓国の先生方と一緒に作成しました。現在、井川顧問、辻代表理事と共にランス氏がリライトし、英語、日本語、韓国語のテキストが完成間近

です。私は、この1月に韓国で作った英語のテキスト "Food" (勤務校の AET がリライトしたもの)を利用して授業をしてみました。紹介をします。今夏の ECAP Korea 2004 では、さらにどのような使い方ができるのか検討をするそうですが、参考になれば幸いです。

授業は、自分のクラス(「英語コース」3年)の勤務校独自の授業「時事英語」(2単位)(20名の講座2つ)で行いました。たまたま1月は、リーディングの授業で韓国人が書いた「縮み思考の日本人」("Inside" and "Outside" in Japan; Lee O-Young 著)を取り上げていたり、国際理解教育講座で、市役所の国際交流員(在日の方)を講師に招き、韓国料理教室を企画していたので、韓国で作ったテキスト "Food" が適した教材ではないかと思い、取り上げることにしました。授業時間数の関係があり、教材の理解も含め2時間しかできませんでしたが、興味深い内容だったようです。生徒によっては、進学する大学の春休みの課題にこの内容を取りあげた者もいました。

1時間目は、教材の英語を理解することを目的に行いました。時間の関係があり(様々な写真を見せながら)訳読式で授業をしました。2時間目は、AETとのチームティーチングでした(Teaching Plan 参照)。クイズやグループ活動、ワークシートも利用しながら、日本の食生活とはどういうものか、考えさせることを目的にしました。

最も多くの生徒が興味を持ったのは、"Are Japanese eating habits stateless?"という点です。最初は字づらだけを追い「無国籍」という言葉に反発し「日本の食生活は日本的だと思う」という生徒が多かったですが、自分たちの毎日の食事で何を食べたかあげさせると意外に日本食は少なく、無国籍かもしれないと認める生徒が増えました。そこで、私が「外国から取り入れた文化は多く、それを日本化するのが日本らしいのではないか。漢字からひらがなやカタカナを作ったように、インドのカレーは日本的なカレーライスになり、日本食に定着しているじゃないか?」と提起すると生徒たちはうなづきました。AET が、「修学旅行でシンガポールに行った時、あなたたちが一番食べたかったのは日本の白いごはんと味噌汁だったと聞いたけど、それが日本人のアイデンティティなの?」と質問をすると、生徒たちは考え込んでしまいました。答えは出ませんが、韓国の食べ物、韓国人のアイデンティティに触れながら、日本人のアイデンティティについて考えるきっかけになったのではないかと考えています。

Teaching Plan

Ms. Parsons (AET) & Ms. Yamada

1. Greetings and divide the class into 5 groups. [3 min.]
2. Yes-no questions about Korean food in group competition [12 min.]
 - (1) In Korea they have *oden*. [Yes: オデン]
 - (2) In Korea they have *norimaki*. [Yes: キンパブ]
 - (3) In Korea they have *tempura* and *udon*. [Yes: Japanese foods are now popular there.]
 - (4) Korean People eat dog meat. [Yes: Dog meat dishes give them lots of energy]

- (5) All Korean food is very hot and spicy. [No]
- (6) The color of Japanese curry and rice is brown. Korean curry and rice is also brown.
[No: yellow]
- (7) Korean *ramen* is like Japanese instant *ramen*. [yes: ラミヨン]
- (8) Korean chopsticks are made of wood. [No: stainless steel]
- (9) In-ho is a girl's name. [No: a boy's name]
- (10) Su-mi is a girl's name. [Yes]

3. Review of the material “ Food ” [10 min.]

Have the students listen to the first 2 paragraphs of the text read by the JTE and AET. Select students to read the other parts of the text and all the students fill in the blanks (1) & (2) on their sheets.

4. Group Activity [10 min.]

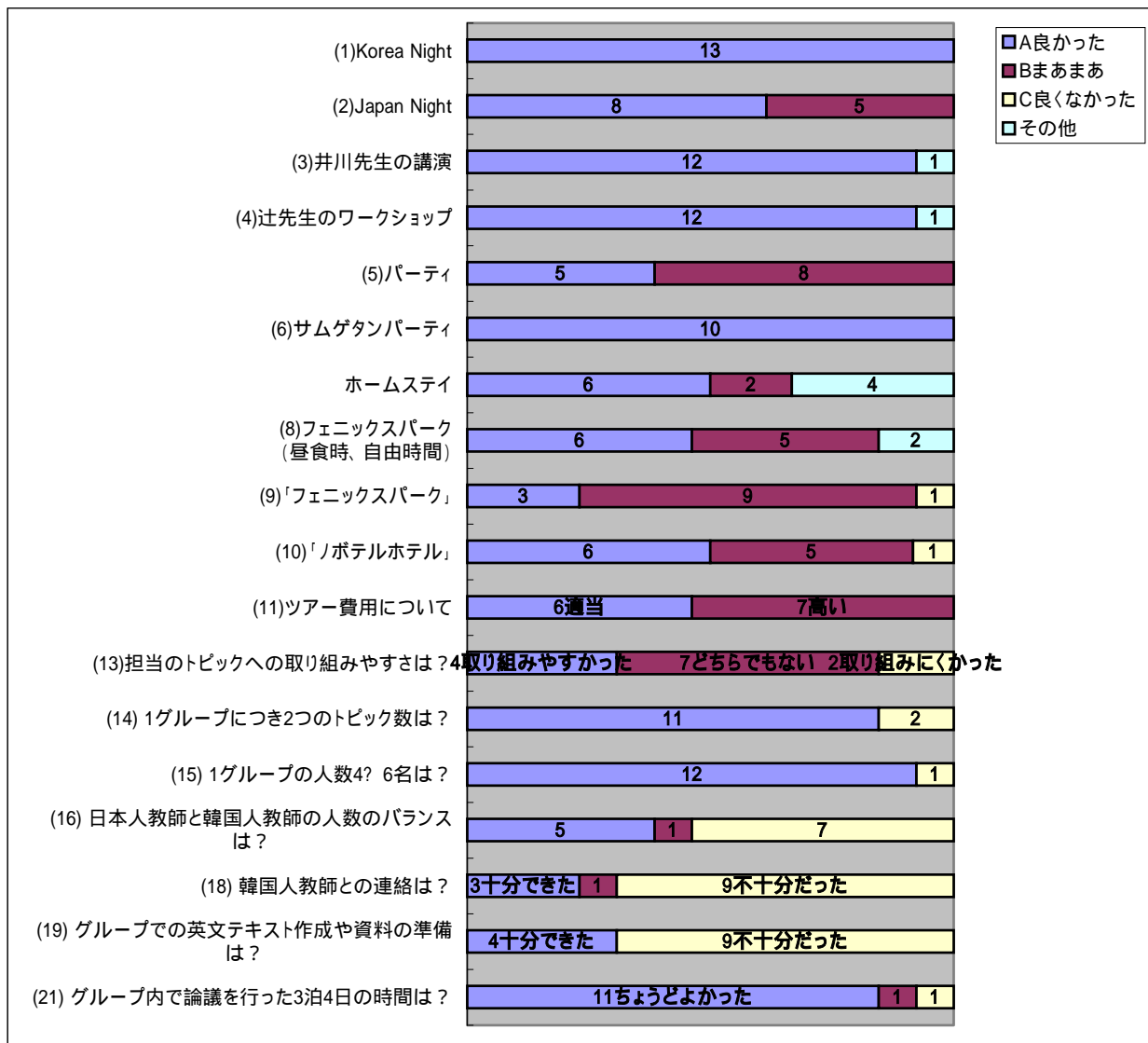
Have the students ask some other students in their group about what they ate the previous day and what kind of food they like best.

5. Have the students think of Japanese eating habits ----Are Japanese eating habits stateless? [15 min.]

- (1) Ask each group to read out the results of the group activity
- (2) Have the students listen to a few of the students ' comments read by the JTE
- (3) Have the students listen to the JTE ' s own opinion
- (4) Have the students listen to the AET ' s comments
- (5) Have the students write about their own opinion

「ECAP 2003 Korea」アンケート集計結果報告

ECAP 2004 Korea(2)実行委員 辰己ゆきえ



「ECAP 2003 Korea」アンケート集計結果 コメント編 「プログラム全体編」

1. 「フェニックスパーク」でのプログラムについて

- (1)Korea Night ・ 韓国の文化を知る機会になってよかった。誠実さ暖かさを感じた
- (2)Japan Night ・ 事前の打ち合わせがほしかった。
- (3)井川先生の講演 ・ International language としての英語の位置づけが実感できる内容であった。

(4)辻先生のワークショップ

- ・テキスト作りのグループでない韓国の先生方と話す機会となりよかった。
- ・具体的な事象をつかって、直接、意見交換できたのは刺激的だった。

(5)パーティ

- ・違うテキストグループの韓国の先生とも話げできた。

2. ソウルでのプログラムについて

(6)サムゲタンパーティ

- ・サムゲタンがおいしかった。ホストファミリーとのお別れができてよかった。
- ・このプログラムに関わった韓国側の方々が多く出席されたので、話を聞いたり、直接話をするこげできてよかった。

(7)ソウルでの過ごし方について(ホームステイ以外)

- ・自由散策の時間もあればいい。観光地をめぐっただけだったが、案内してくれた韓国人のかたと話せたのが面白かった。

3. ホームステイについて

- ・現地の人たちの普段の生活を体験できて大変よかった。次回は日本語を話せないお宅にもステイしてみたい。
- ・寝食を共にすると気持ちもほぐれ、いろんな話ができる。もう一日あればうれしい。

4. 宿舎での過ごし方(プログラム以外)について

(8)フェニックスパーク(昼食時、自由時間)

- ・グループ内で適宜進められたので良かった。昼食時もテキスト作りの班で過ごすことで、お互いの人柄がわかり、楽しめ、討論も進めやすくなった。・たっぷり時間があつたので、韓国の先生方と一緒に、近くの観光スポットに行き、説明をしていただいたりして韓国文化を学べたのは大変良かったと思う。・もう少し韓国の先生方と自由に過ごせてもよかった。

5. 宿舎について、ツアーの企画について

(9)「フェニックスパーク」

- ・研修をするのに都合のよいホテルであつた。気候も涼しかったのがよかった。・場所自体は良かったが、ソウルから遠く、交通に時間がかかたり交通費がかかり過ぎたように思われる。

(10)「ノホテルホテル」

- ・落ち着かなかつた。楽しむひまがなかつた。
- ・きれいでゆっくりできた。

(11)ツアー費用について

- ・費用は高いとは思うが、プログラム内容がそれ以上に高く、得をした気分です。

(12)日程について(時期、期間など)

- ・いつも土日を入れてほしい。・韓国や日本の学校事情を考えると、8月初旬は適当。・テキストの研修は2泊3日か3泊4日が必要。E C A Pとしてはテキスト研修とホームステイをプログラムとし、オプションでその他の地域の観光的なツアーを組むのがよい。

6. その他、全般的に

- ・初めての韓国でいきなりフェニックスパークはさびしかった。殺風景だった。・参加人数がもっと多いと良い

- ・今後さらに多くの韓国人の先生方に来ていただけるよう工夫が必要。・2つの文化の交流という視点でのKorea Night、Japan Night、ワークショップ、テキスト作成と、勉強になるとともに楽しめたの

がよかった。施設もこのE C A Pに相応しい場所だったと思う。

「テキスト作成編」

7. トピックとメンバー構成について

(13) 担当のトピックへの取り組みやすさは？

A 取り組みやすかった ・身近なテーマだった。

B 取り組みやすくも取り組みにくくもなかった

- ・初回だったので、なかなかイメージがつかめず、どのような方向に持っていけばいいのかわからない部分があった。が、だからこそ興味深かった。

C 取り組みにくかった

- ・ファッションというトピックであったが、日韓間で違いが見つからず「美容整形」に1日目終わった段階で変更した。こちらは取り組みやすかった。

(14) 1グループにつき2つのトピック数は？

A よかった

- ・私たちのグループは話し合いのあとで、一人が草稿を考えて、再度皆で読みあわせをするという形ですすめた。トピックが一つしかない、皆が関わったといいがたい。
- ・今回はよかった。韓国の先生の数が少なかったのでやむをえなかったと思う。日韓の先生数は同数程度で1グループ3～4名、トピックは一つにしては？そのほうがより日本側の参加者の責任分担も増え、スピーキングの量も増えるのではないか。

B よくなかった

- ・出来れば一つのテーマを徹底して追求してみたい。・メンバーをトピック数で分けたため、韓国の先生が一人であったこともあり、話し合う時間が限られた。

(15) 1グループの人数4～6名は？

A よかった

- ・2人1トピック。英語にするとき何人もが一斉に関わると、かえって船頭多くという状態になりやすい。ただ、全てを2人きりですすめると、行き詰るときもあるだろうから、まとめ方やアイデアに関しては4人から6人で知恵をしばるのがいいのでは。

B よくなかった

- ・日韓の先生数は同数程度で1グループ3～4名、トピックは一つにしては？そのほうがより日本側の参加者の責任分担も増え、スピーキングの量も増えるのではないか。

(16) 日本人教師と韓国人教師の人数のバランスは？

A よかった ・4対1のバランスでよかった。

B よくなかった

- ・韓国の先生が1グループに2名ずつ。・日韓の先生が同数。・韓国人を複数配置。一人で韓国を代表するのはしんどいし、得られる情報も狭くなってしまふ。理想は日本人3～4名に韓国人2～3名。できれば同数。

(17) その他、トピック・メンバー構成についてご意見や改善した方がよい点をお書き下さい。

・トピックに、「日本と韓国との交流」「互いの国の授業では、互いの国をこのように勉強している」というものがあるといいと思う。・日本側のグループのメンバー構成も、それぞれのメンバーの英語力も少し考慮した方がよいかもしい。

8. 準備について (ECAP 当日まで)

(18) 韓国人教師との連絡は？

- A 十分できた ・特に困らなかった。
- B 不十分だった ・グループが決まってからの期間が短い。
- ・メールのやりとりが不十分。なかなか返事がこなかった。
- ・トピックを自分たちでもつかみきれず、尋ねる内容が整理できなかった。

(19) グループでの英文テキスト作成や資料の準備は？

- A 十分できた ・日本から草稿を持っていった。
- B 不十分だった

・トピックが決まってから、出発までの時間が短かった。2回グループで集まり、共通認識をもち、資料探しをしましたが、日本人同士で話し合う時間がほしかった。・資料として使いたい写真の許可をとることができなかった。・トピックの内容が広すぎて絞込みが出来ないまま、現地に臨んだ。・4人中で2つのトピックを2人で1つずつ分担した形で、グループのトピックを4人で共有できずにその日がきてしまった。用語の英語を知るだけで終わった準備だった。・帰国してからのまとめが十分できなかった。

(20) その他、準備段階全般に関してご意見や改善した方がよい点をお書き下さい。

・早く準備を始めること。

・韓国の先生との連絡は、トピックをお知らせし、それに関する情報を準備してもらいました。メールでの相互にやりとりすることはできませんでした。メールでの討論は難しいでしょうし、実際に現地で話をして初めてわかってくることもあります。したがって、準備段階ではトピックをお知らせし、それに関してお互いが情報を整理しておくことで十分ではないかとかんじました。日本人同士では盛り込む内容の方向づけを事前にしておくことが必要だと思いました。

9. ECAP 現地

(21) グループ内で論議を行った3泊4日の時間は？

- A 短すぎた 具体的にどのくらいが妥当か？(4泊5日)
- B ちょうどよかった

・時間的には適当だったが、テキストの完成という点ではやりきれない点が多く、不足かもしれない。
・慣れればもう少し短い期間でもよいと思います。せっかく現地に行くので、現地フィールドワークももっと持ちたかったです。

- C 長すぎた 具体的にどのくらいが妥当か？(2泊3日)

(22) 昼食や宿泊も含め、テキスト作成グループ(韓国人教師も一緒に)毎の行動を基本とした今回のプランについて、よかった点、よくなかった点、改善した方がよい点をお書き下さい。

● よかった点

- ・寝食を共にすることで、お互いへの理解も深まり、テキスト論議にプラスになった。
- ・より親密になれたこと。韓国人教師がイニシアチブをとれるチャンスになったこと。
- ・Bグループは4人だったので、十分ディスカッションできる態勢で非常に良かった。リーダーの進め方もスムーズでやりやすかった。
- ・食事など自由時間が多かったので、韓国人教師と一緒に話をしたり、観光スポットに行ったり食事をしたりできたのはとてもよかった。

- よくなかった点
 - ・他のグループの韓国の先生と話す機会が少なかった。
 - ・韓国の先生にとっては、グループ内に1人だけというのはしんどかっただろう。
 - ・大きなテーマなので複数の人の意見も聞けたらよかった。
- 改善した方がよい点
 - ・どんな形式でも可、ということだったが、ある程度形式が決まっていたほうが良かった。
 - ・1グループに韓国の先生が2名以上いるほうがよい。
 - ・他の韓国の先生の考えを聞く機会、途中で先生を交換？
 - ・余裕があるなら、途中に他のグループの状況や情報交換が出来る時間帯もあればよい。

(23) グループ内での論議の進め方について、ご感想やご意見をお書き下さい。

- ・互いの英語力がキーとなる。
- ・テーマが身近なもの(「学校生活」「暖房器具」)だったので、体験談も語りながら、楽しく論議が進められた。・事前にもう少しどのように進めるか展望なり、方針なりをもって臨まないと思っただ。・議論の進め方は今回よくなかったとは思わないが、どうしても同じメンバーばかりが発言が多くなるので、どのメンバーも話さざるを得ないようなグループ作りの工夫が必要。

(24) 最終日の「発表(プレゼンテーション)」について、ご感想やご意見をお書き下さい。

- ・実際に授業で使うことを意識した発表であっても良かったと思う。・最終にプレゼンがあるので、何とか頑張って形にしようとするからいい。・それぞれのグループが発表の仕方も工夫しており、他のグループの話し合った結果を聞くのは大変興味深かった。また、発表することにより、達成感を味わうことができた。・このプレゼンテーションの準備にもう少し時間が割ければもっと充実したものが出来て現地で共有できることが増えたことだろうと感じた。
- ・このプログラムのしめとして楽しめた。自分たちでないトピックの仕上げりまでの過程ももっと知りたい。

10. その他、テキスト作成全般に対するご感想やご意見をお書き下さい。

- ・今年さらさら突っ込んだ議論ができるとうい。
- ・今回は一回目で、わからないまま進んだことも多かったので、この反省を元にテキスト作成の進め方やハウツーをまとめていくことで、次回は効率よくできると思う。
- ・韓国の先生方との話し合いは、とても面白いものでした。テキスト作成という大きな目的があったから、深く考え、一生懸命伝え、理解しようとし、その面白さを味わえたのだと思います。

アンケートへのご協力ありがとうございました。ここにはページの都合上、皆様のご意見の一部を掲載しましたが、ご回答いただいたご意見ご感想を全て参考にして、ECAP 2004 Korea (2)は始動しました。アンケート集計結果についてご質問等ありましたら、辰巳までご連絡くださいますようお願いいたします。

私は去年のECAPには参加していませんが、集計作業中気になったことのひとつが「サムゲタン」です。いったい何なのか気になって参加者の方にお聞きし、それからレトルトパックのサムゲタンを購入しました！(ここでも買えます。<http://www.rakuten.co.jp/panga/399276/405776/>) 塩コショウ&ゴマを入れて(お好みでどうぞ!)おいしくいただきました。韓国で経験者の皆さん、本場ものとレトルトと比べてみませんか？

***** お知らせ *****

< 報告 > ECAP の記事が日経新聞に掲載！

ECAP の記事が、3月12日（金）日本経済新聞・夕刊・社会面・19面に掲載されました。「ECAP 2003」の写真付きで、テキストのトピックについての紹介やテキスト出版について、また今年の「ECAP 2004」についても言及しています（記事参照）。この記事で、ECAP の広報・宣伝活動に使いましょう！

加えて、12日の夕方のテレビのニュース番組でも、「夕刊の注目記事チェック」のコーナーで紹介されたそうです。予期しないことでしたので、ビデオに録画できなかったのが残念です。

< 報告 > e-dream-s の紹介が「英語教育」に掲載

本日3月13日発行の月刊雑誌「英語教育・4月号」（株）大修館書店）に、e-dream-s の紹介が掲載されています。辻代表理事の文章で、タイトルは「学校の外へも目を向けよう 教師のためのNPO 活動のすすめ」です。同じ号で、ACROSS が、英語教育に関する研究会案内の一番最初に紹介されています。是非、購入または本屋さんで一読を！

山田理事からもこれについて、お知らせがありました。

在発売されている「英語教育」2004年4月号（大修館書店発行）に、e-dream-s や ACROSS の紹介が掲載されています。「[特集] 今年の授業はこれに挑戦！」という企画でのひとつで、英語教師のための研究会やNPO などの活動を紹介したいので、原稿を書いてくれないかという依頼があり、辻代表理事、河野会長にお世話いただいたものです。みなさん、是非ご覧ください。

- ・「学校の外へも目を向けよう---教師のためのNPO 活動のすすめ」（辻一著）p. 21
- ・「今年こそ行ってみたい---教師のための研究会案内」p. 34

<募集> 「@aglance・海外写真」

「@aglance・海外写真」を募集中です。皆様の家の引き出しに眠っている写真はありますか？ 同僚や知人・友人にも声を掛けてみませんか？

*写真及びデータの送付先（メールまたは郵送で）:

山本 美貴（やまもと みき）

〒573-1149 大阪府枚方市牧野北町 6-17-302

<mikiyamamoto@e-dream-s.org>

*写真の規格など提供に関する詳細:

「掲載画像の募集」 <http://www.aglance.org/archives/>

*お問い合わせ先：辻編集長まで。<tsuji@e-dream-s.org>

<募集> 「オンデマンド日本写真」に写真の提供を

@aglance の「オンデマンド日本写真」への 62 種類のリクエストに、続々と写真が提供されてきています。皆様のご協力をお願いします。

*写真及びデータの送付の締切：2004 年 3 月 31 日（水）

*写真及びデータの送付先（メールまたは郵送で）:

辻 荘一（つじ しょういち）

〒565-0821 大阪府吹田市山田東 1-36-1-207

<tsuji@e-dream-s.org>

*写真の規格など提供に関する詳細:

<http://www.aglance.org/kana/>

*お問い合わせ先：辻編集長まで。<tsuji@e-dream-s.org>

<募集>e-メールでの国際交流募集

第3弾 “ カメルーンのセカンダリースクールの生徒とe-メール交流をしませんか ”

昨年2回にわたって、カメルーンの生徒と日本の生徒との「e-メールによる国際交流」を呼びかけましたところ、たくさん希望が集まり、ありがとうございました。

今回は、その第3弾です。さらに、セカンダリースクール(リンベとヤウンデ)の生徒たちから日本の学生とのe-メール交流をしたいという希望を聞いています。

希望者は、山田まで e-メールにてご連絡ください。(希望者多数の場合は、御相談させていただく場合もあります。)

(1)方法 ・勤務校の生徒が、e-メール交流する

・自分が、e-メール交流する

(2)希望者は、山田昌子(yamada@e-dream-s.org)まで

(3)締め切り： 今月中(3月31日(水)まで)

ただし、来年度、新しいクラスで呼び掛けられる場合も、山田までご連絡ください。

<案内> 「日本NPO学会」& 「公開国際シンポジウム」

<日本NPO学会・第6回年次大会(横浜大会)>

・日時：3月19日(金)~21日(日)

・会場：横浜市開港記念会館

横浜市中区本町1-6

TEL.045-201-0708

・交通：JR線、市営地下鉄線「関内駅」より徒歩10分またはバス停「県庁前」

横浜高速鉄道みなとみらい線「日本大通り駅」下車徒歩5分

「横浜駅」東口より車で15分

<公開国際シンポジウム>

~一般公開プログラム、入場無料~

・日時：3月20日(土)14:00~17:30

・会場：横浜市開港記念会館

・入場：無料

・テーマ：「国際グローバリゼーションと市民社会」

基調報告とパネル討論

* プログラムや参加についての詳細は、「日本NPO学会」のホームページを。

<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/janpora/>

アクロス30周年記念誌に関する写真送付のお願い

アクロスは本年設立30周年を迎えます。それにともない、記念誌を発行したいと考えています。つきましては、記念誌をより一層充実したものにするために写真を掲載したいと考えています。

そこで皆様が今までに活動した内容に関して記録した写真をお貸しいただければと思います。訓練の様子、訓練合宿、ドラマ発表等、アジアツアー等（発音研究会の時代を含めて）アクロスの活動に関するものでしたらどんなものでもけっこうです。一度下記まで御連絡ください。なお、お借りする写真等は、責任を持ってお返しいたします。その他、ビデオ等、過去の活動に関してお借りできるものがありましたら御連絡ください。御協力のほど何卒よろしくお願いたします。

30周年記念誌写真担当 藤澤 俊之

担当者名：藤澤 俊之

連絡先：メールアドレス；fujisawa@e-dream-s.org.

住 所；〒662-0978 西宮市産所町11-20-904

電 話 番 号；0798-34-1860

090-3627-6015（携帯）

編集後記

先週の金曜日、私の勤務する中学校での卒業式が行われました。私は3年生の学年担当ではないのですが、卒業式に参列すると、毎回、感慨深いものがあります。それまでは、だらけてたり、甘えてたり、まだまだ子どものような生徒たちも、この日には、ちゃんと大人の顔をして卒業していくのです。特に印象的だったのは、答辞を読み終えて席についた男の子の、なんとも誇らしげな表情でした。今年の答辞は、男子2名、女子2名の4名の生徒が、かわるがわる答辞を読み上げるというものでしたが、女子生徒の1名は、読んでいる最中に感極まって泣いてしまい、しゃくりあげながらも、必死に読んでいました。そんな彼女を、他3名は、後ろから「がんばれ」と小声で励ましていました。その男の子の表情の誇らしさは、ただ「答辞を読み終えた」というだけではなく、「中学校生活を終えた」という満足感を表しているように私には思えました。一生懸命にやればそれだけ、身につくものは大きいのです。私自身もまた、これからもがんばろうという力をもらえた、そんな卒業式でした。

（田辺恵美）

受験や結婚…日韓の文化の差

教材一緒なら 分かり合える

「近くて遠い」とも言われる日本と韓国の中高校生に互いの生活文化を紹介、相互理解を深めようと、両国の英語教師らのグループが共通の教材づくりを進めている。食べ物や受験、恋愛など十二のテーマについて、両国の違いや共通点を日韓英の三カ国語で記述。四月、日韓の学校などに二千字を無料で配り、総合的学習などの副教材に使ってもらう計画だ。

日本側のグループは、どましている。韓国側は、取り上げた。関西や首都圏、九州の英イー・ドリームズのメン、テーマごとに、日本の語教師ら約八十人でつく。イー・ドリームズで知り合ったメンバーが書籍やインターネットで韓国語の特定非営利活動法人、た女性ら英語教師七人。イーネットなどで韓国の事(NPO法人)、e id。まず、日韓の高校生に、情を調べ、おおよかな内reams(イー・ド、アンケート調査し、関心、容を準備。昨年八月に約リームズ、大阪府吹田の、高い十二テーマを選ん、三十人が訪韓し、事実関係、教育・国際交流分、だ。歴史など政治色の強、係や教材として「さわし野での社会貢献を届け、い分界は避け、家庭や学、い内容かどうかなど三教材用写真の無料提供な、校など身近なところから、日間議論した。「徴兵制」

両国の学校用、3カ国語で 英語教師ら



記述内容について議論する日韓のメンバー(昨年8月)＝イー・ドリームズ提供
吹田高校教諭(左)は「英語教師ならではの国際貢献をしたい。教師同士が交流すること自体、子どもへの波及効果を考えれば市民レベルの相互理解の深化につながると思う」と話している。

のテーマでは、兵役を実冊にまとめた。タイトルと両国の共通点を挙げる際に経験した韓国側の男性教師が体験談を披露、原稿を生かした。議論に基づいてまず英語版の原稿を作成し、両国のメンバーがそれぞれ日本語、ハンガルに翻訳。写真や図なども付けて一年の少子化、離婚増加など。例えは「結婚」のテーマでは、かつて見合い結婚が主流だったことや近年の少子化、離婚増加など。内容は今後、追加・改訂していく考えで、イー・ドリームズ側が今年も訪韓する。オーストラリアやアジア各国の英語教師とも同様の共通教材づくりに取り組む計画。代表理事の辻在一、

「テコ午まな」

冷静に語った。
アスナール首相は同日
午後テレビ演説で「二名著名日として歴史に残
〇〇四年三月十一日は不」と述べた。